

地域の経済動向（令和4年1～3月期）

《十勝地域》

1 経済動向に係る企業等の声（1～3月期）

【製造業】

- ・牛乳が余っているため、酪農家のやる気が下がっている。子牛が売れないと当社の製品は売れない。（プラスチック製品製造業）
- ・鋼板・木材の原料高の影響で仕入単価が高騰し、販売単価も上昇している。その影響で業界全体として建築戸数の減少が心配され、先行きが不安な状況である。（建設用・建築用金属製品製造業（製缶板金業を含む））
- ・ふるさと納税の効果により売上が右肩上がりとなっており、商品をストックしている冷凍保管スペースが手狭になったため、増床を行った。（食品製造業）
- ・販路拡大等を図りたいと考えているが、人手が足りず苦慮している。また、これまでの業務にプラスアルファした事業展開を目指しており、例として農産物の加工において、味付けなどに一加工加えた工程を実施したいと考えているが、既存工場では実施が困難であり、工場の増設を検討したいが、費用対効果が見込めず、苦慮している。（食品製造業）
- ・パン製造に使用している小麦はほとんどが地元産（十勝産）であり、現段階でウクライナ侵攻の直接的な影響はないが、輸入小麦の価格が徐々に上がっているという話を聞くことから、今後、十勝産小麦の需要が増加することでの価格上昇を懸念している。（食品製造業）

【卸売・小売業】

- ・輸送を中心に物の価格が上昇し、対応が難しい。物価安定を望む。（農畜産物・水産物卸売業（農産物移出業））

【運輸業】

- ・エネルギー関係の価格の高騰が続き、建設業・運輸業に多大なダメージを与えているため、ガソリン税や軽油税を撤廃してほしい。長期化すれば会社の存続にかかわる重大問題であり、国が対策しない限り運転手や業者の減少による物流の混乱を招く。国の補助は、元売りの補助にはなっているが、末端価格には転換されていない。（一般貨物自動車運送業、土木工事業（舗装工事業を除く））








【サービス業】

- ・入札において、1.5%の賃上げ実施が加点となるため、賃上げの表明とその実現に向けた取り組みが、新年度の最大の課題。（土木建築サービス業（建築設計業））
- ・雪害関係としては、まん延防止等重点措置期間中で観光客数が少なかったこと、JRより先に都市間バスが再開したことから十勝エリアの影響は限定的だった印象。（観光団体、旅行業）





【関係機関・団体】

- ・まん防適用となってから、明らかに来客数が減ったと実感している飲食店が多く、措置期間の延長が続き、いつまでこの状況が続くのかと不安になっている店舗がある一方で、一部の店舗では営業日数の増加、テイクアウトによる販売促進に取り組むなど、売上の確保、客離れの防止に努めている。（商工会）
- ・若年者の雇用に関し、ミスマッチによる早期離職が課題となっている現状において、各学校においてキャリア教育の取組が行われてきたところであり、今後ますます需要が高まると予想されるインターンシップ等の職業体験の促進のために、学校と企業の連携が図れる仕組みがあると望ましい。（商工会議所）
- ・ウクライナ侵攻の影響に係る緊急調査を管内事業者を対象に行ったところ、十勝はロシアとの直接取引が少ない地域ではあるが、現時点の影響として、欧州－日本便欠航によりノルウェー産サーモンの入荷が途絶えたとの声の水産卸売業者から出ているほか、長期化によってロシアからの輸入量が多いカニやアルミ材などの入荷難、すでに高騰しているエネルギーや肥料の値上げ進行などを懸念する声が聞かれた。（商工会議所）









2 道内金融機関から見た地域景況感 (1～3月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

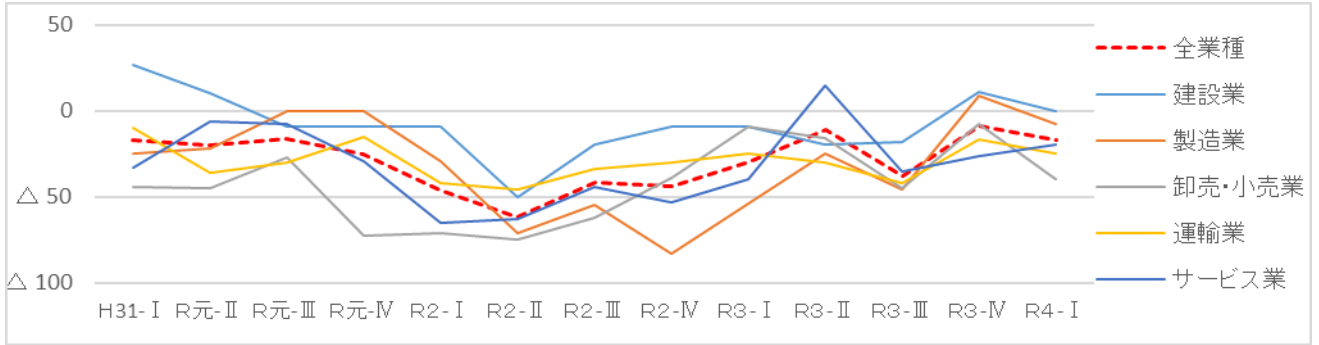
【直近の景況感】

	現在の景況感			判断理由	次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向		方向感	判断理由
帯広信用金庫				<p>当金庫が実施した1～3月期の地域企業景気動向調査では、地域企業の業況判断DIは△36と、前期実績および前回調査時点からの見通しから下振れ、「悪い超」幅を拡大した。仕入・材料価格が既往最大の「上昇超」幅を記録したことなどにより、売上額、収益はいずれも前期比やや悪化となった。</p> <p>生産動向については、製造業の業況判断は7期振りに前期比悪化となった。消費動向については、小売業の業況判断は新型コロナウイルスの拡大によるまん延防止等重点措置の発令の影響を受け、飲食店、衣服・身回品等の業況判断が「悪い超」幅を大幅に拡大したことなどから、前期比悪化となった。</p>		<p>来期の業況判断は△32と、今期から小幅ながら改善の見通しとなった。売上額、収益はいずれも2020年1～3月期並みの水準まで「減収減益超」幅を縮小し、販売・料金価格は既往最大の「上昇超」幅を更新。仕入・材料価格は依然として高止まりの見通しとなっている。</p>

【景況感の推移】

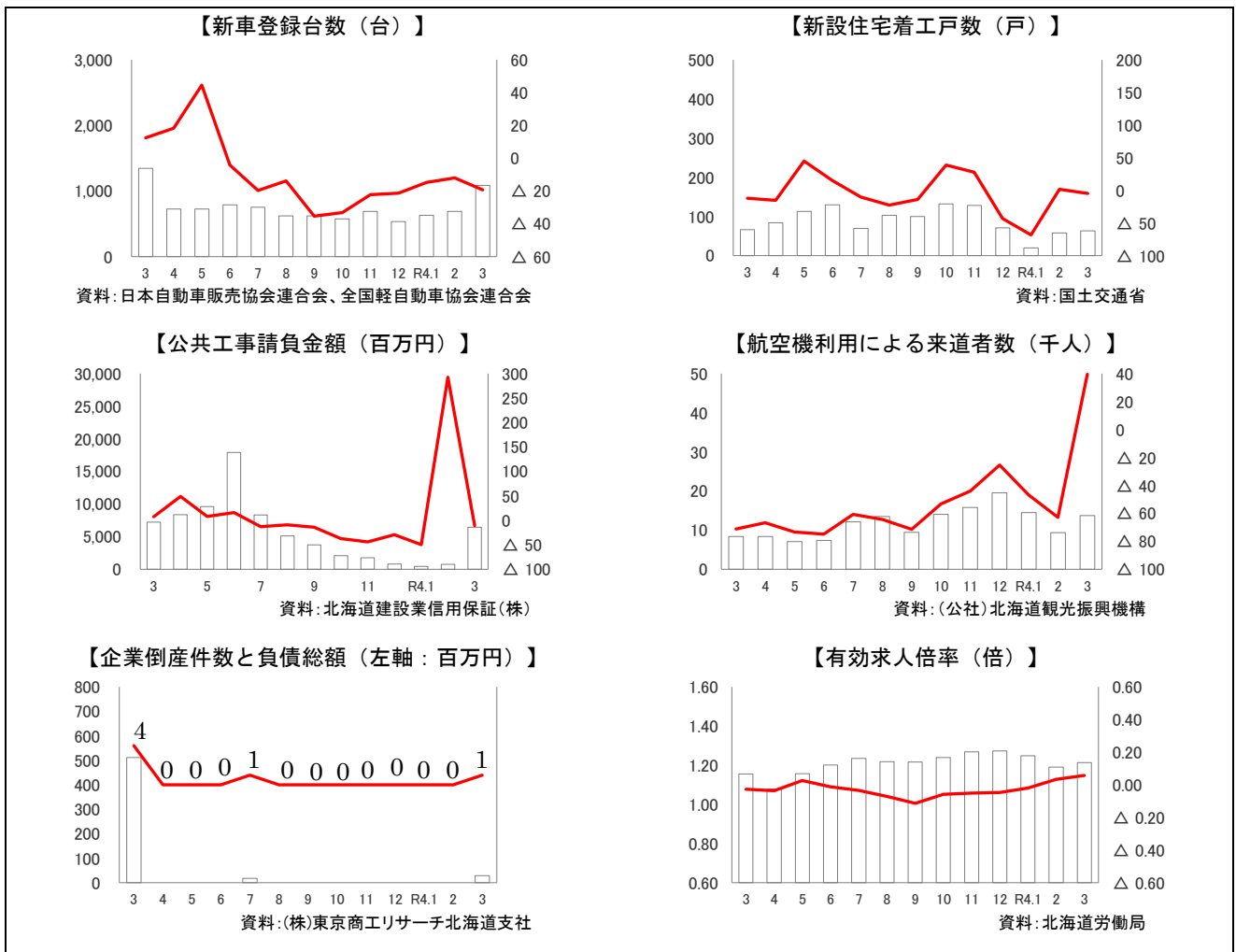
	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I
帯広信用金庫								

3 業種別の業況感BSI（企業経営者意識調査）



	H31-I	R元-II	R元-III	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I
全業種	△ 17	△ 20	△ 16	△ 25	△ 46	△ 62	△ 42	△ 44	△ 30	△ 11	△ 38	△ 9	△ 17
建設業	27	10	△ 9	△ 9	△ 9	△ 50	△ 20	△ 9	△ 9	△ 20	△ 18	11	0
製造業	△ 25	△ 22	0	0	△ 29	△ 71	△ 55	△ 83	△ 54	△ 25	△ 46	9	△ 8
卸売・小売業	△ 44	△ 45	△ 27	△ 73	△ 71	△ 75	△ 62	△ 39	△ 9	△ 16	△ 45	△ 8	△ 40
運輸業	△ 10	△ 36	△ 30	△ 15	△ 42	△ 46	△ 34	△ 30	△ 25	△ 30	△ 42	△ 17	△ 25
サービス業	△ 33	△ 6	△ 8	△ 29	△ 65	△ 63	△ 44	△ 53	△ 40	15	△ 35	△ 26	△ 20

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)